



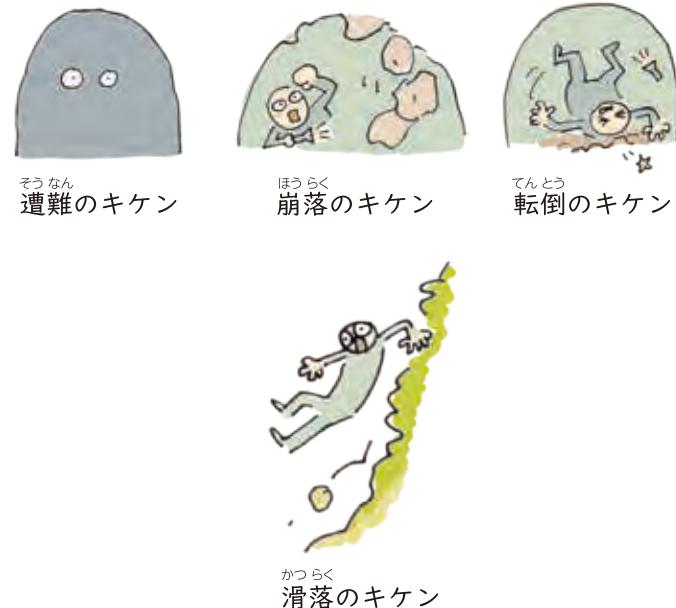
綾
道

あ
や
ん
つ

戰
爭
遺
跡
編

ごう なか てんじょう へきめん ほう らく き けん
壕の中は天井や壁面の崩落の危険があります。

ごう ない た い えん りょ
壕内への立ち入りはご遠慮ください。

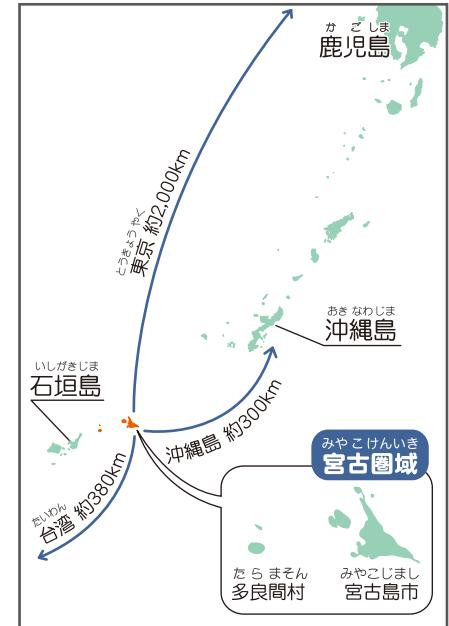


みやこじまし いちめんせき 宮古島市の位置と面積

みやこじましまだいしうしまみやこじま
宮古島市は大小6つの島(宮古島、
いけまじまおおがみじまくりまじまいらぶじましち
池間島、大神島、来間島、伊良部島、下
じじまこうせい
地島)で構成されています。

そう めん せき へい ほう じん
総面積は204平方キロメートル、人
こう やく まん たい ぶ ぶん
口約5万6,000人で、人口の大部分は
ひら ら ち く しゅううちゅう
平良地区に集中しています。

しま ぜん たい へい たん さん がく ぶ おお
島全体がほぼ平坦で、山岳部や大き
か せん せい かつ よう すい
な河川もなく、生活用水などのほとん
ち か すい たよ
どを地下水に頼っています。



＜戦争遺跡についてのお問い合わせ＞

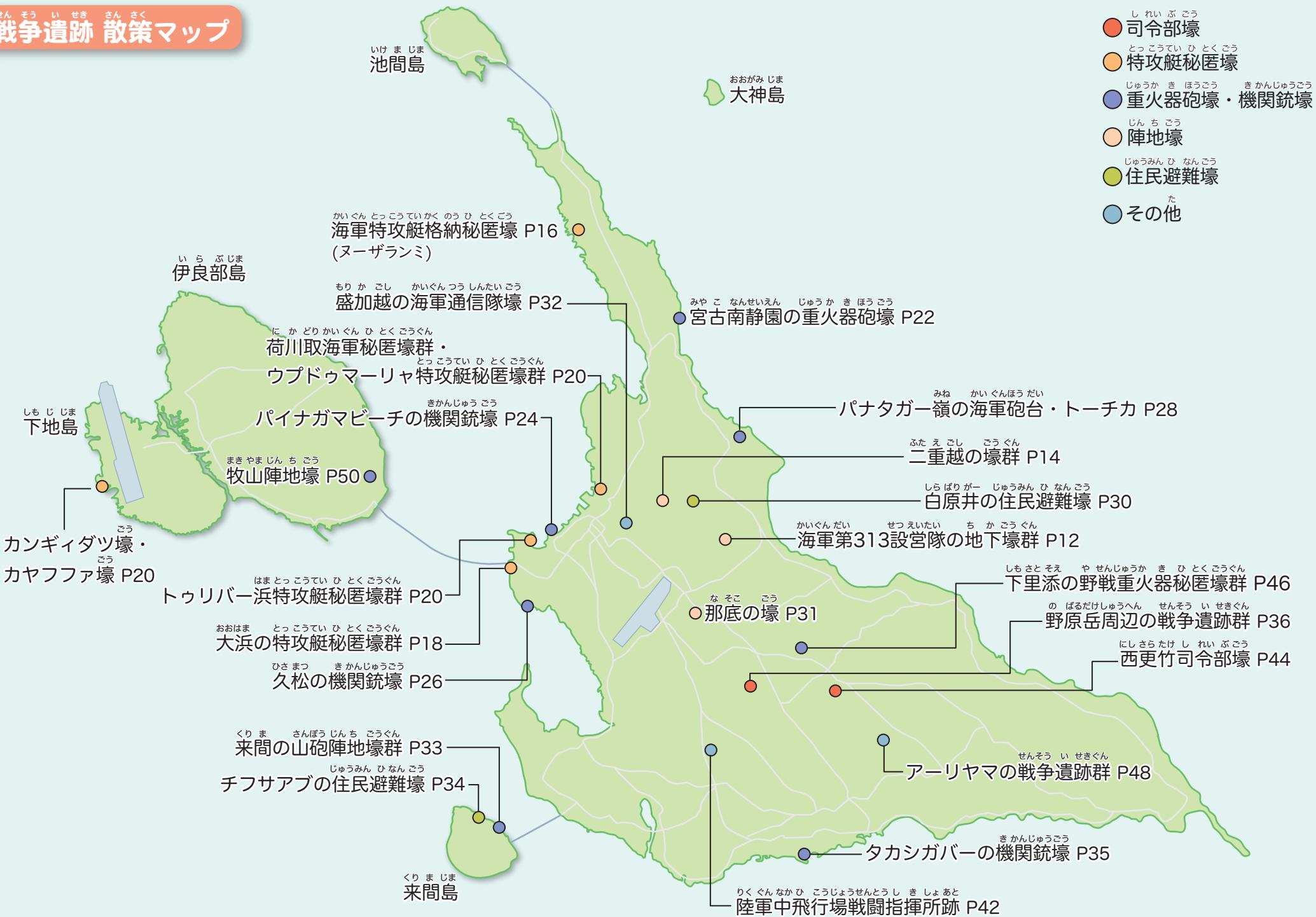
宮古島市教育委員会 生涯学習振興課 文化財係

＜主な参考図書＞

- ・『宮古の戦争と平和を歩く』宮古郷土史研究会 1995年
 - ・『先島群島作戦<宮古編>』瀬名波栄 1975年
 - ・『沖縄県戦争遺跡詳細分布調査(V)-宮古諸島編-』
沖縄県立埋蔵文化財センター 2005年
 - ・『沖縄県の戦争遺跡』沖縄県立埋蔵文化財センター 2015年



戦争遺跡 散策マップ



綾道 (戦争遺跡コース)

宮古島市の位置と面積	03
散策マップ	04
歴史略年表	08
宮古島地区防衛配備図と宮古群島の沖縄戦のようす	10
【平良地区】	
海軍第313設営隊の地下壕群	12
二重越の壕群	14
海軍特攻艇格納秘匿壕 (ヌーザランミ)	16
大浜の特攻艇秘匿壕群	18
その他の特攻艇秘匿壕	20
特攻艇とは	21
宮古南静園の重火器砲壕	22
パイナガマの機関銃壕	24
久松の機関銃壕	26
パナタガー嶺の海軍砲台・トーチカ	28
白原井の住民避難壕	30
那底の壕	31
盛加越の海軍通信隊壕	32

【下地地区】

来間の山砲陣地壕群	33
-----------	----

チフサアブの住民避難壕	34
-------------	----

【上野地区】

タカシガバーの機関銃壕	35
-------------	----

野原岳周辺の戦争遺跡群	36
-------------	----

電波探知機壕	36
--------	----

タキグスバルの地下壕群	38
-------------	----

ツガガーの地下壕群	39
-----------	----

大嶽城跡公園西側壕群・トーチカ / 大嶽城跡公園東側壕群	39
------------------------------	----

野原の御真影奉護壕	40
-----------	----

御真影とは	41
-------	----

陸軍中飛行場戦闘指揮所跡	42
--------------	----

【城辺地区】

西更竹司令部壕	44
---------	----

下里添の野戦重火器秘匿壕群	46
---------------	----

アーリヤマの戦争遺跡群	48
-------------	----

【伊良部地区】

牧山陣地壕	50
-------	----

宮古島に配備された主な部隊編成と用語集	52
---------------------	----

※太字部分は宮古における大きなできごと

西暦	沖縄・宮古の動き		日本と世界の動き
1938年			4月 国家総動員法公布
1940年			9月 日独伊三国軍事同盟成立
1941年	4月 尋常高等小学校は国民学校に名称変更(初等科・高等科)		12月 対米英宣戦布告(真珠湾攻撃)
1942年	1月 福里北海岸浦底に飛行機不時着		1月 日独伊三国新軍事協定調印
	2月 特務艦柏丸、池間沖に停泊		4月 米空軍、本土初空襲
			6月 ミッドウェイ海戦大敗
			12月 ガダルカナル島撤退決定
1943年			5月 アツツ島日本守備隊全滅
	10月 七原、屋原、越地で軍用飛行場用地接収		9月 イタリア無条件降伏
	11月 特設警備第210中隊、下地国民学校を接収 貸船嘉義丸、湖南丸、奄美大島近海で撃沈		12月 学徒出陣
1944年	3月 南西諸島に大本営直轄の第32軍が新設、沖縄防衛本格化		
	5月 要塞建築勤務第8中隊・第205飛行場大隊 宮古入り 平良第二国民学校・新里国民学校、軍に接収 陸軍宮古島西飛行場の建設開始		
	6月 宮古神社遷座祭・奉納祝祭開催 富山丸が徳之島東沖で撃沈され、宮古配備予定の守備兵約3,700人が死亡 郡内各国民学校で「青少年兵志願隊」結成 陸軍宮古島中飛行場の建設開始	6月 マリアナ沖海戦 大都市の学童集団疎開	
	7月 城辺国民学校・西辺国民学校、軍に接収 奄美、沖縄、宮古、石垣の老幼婦女子に疎開命令 宮古から本土・台湾へ約1万人疎開 第28師団配備、宮古高等女学校を司令部に接収	7月 サイパン島の日本軍全滅	
	8月 平良第一・第二・下地の3校児童、九州疎開 対馬丸、悪石島付近で撃沈(22日)	8月 閣議、一億総武装を決定	
	9月 伊良部国民学校、軍に接収		
10月 狩俣国民学校、陸軍病院分院として接収 「十・空襲」米軍艦載機が県内全域を爆撃。平良など初めての空襲を受ける。 飛行場や停泊中の船舶や民家に被害が出る 米軍上陸必須の状況と判断し、先島守備隊は第28師団司令部を野原岳に構築、軍事物資を秘匿するための地下陣地の構築が加速。住民の疎開や防空壕づくりも本格化	10月 レイテ島沖海戦 神風特攻隊初出撃		

出典:『宮古の戦争と平和を歩く』宮古郷土史研究会 1995年

西暦	沖縄・宮古の動き		日本と世界の動き
1944年	11月 各国民学校の御真影・勅語謄本を宮古中学校に移動(1日)、翌日野原越の「奉遷所」に移す 宮古出身者約800人が警備召集(特設警備505大隊)		
	12月 宮古群島守備兵力、ほぼ展開終了(陸軍2万8,000人、海軍2,000人、計3万人余り)		
1945年	1月 納見敏郎中将が第28師団長に着任		
	2月 宮古に空襲や警報発令が続く	2月 ヤルタ会談、米機動部隊本土初空襲	
	3月 数百機による大爆撃により宮古島全域が被害をうける。住民の犠牲も続出	3月 硫黄島の日本軍全滅 東京大空襲	
	4月 米軍、北谷・読谷に上陸(1日) 平良の街の中央部から北西部が爆撃により焼失 米太平洋艦隊司令官、宮古島攻略の無期延期を指令		
	5月 英太平洋艦隊、宮古沖から艦砲射撃(4日) 軍艦18隻に385発撃ち込まれる 日本軍南部へ撤退、10万以上の住民が戦闘に巻き込まれる	5月 ドイツ軍無条件降伏	
	6月 宮古出身者の防衛召集が強化される 第32軍司令官牛島満ら、摩文仁で自決 沖縄戦終了(23日) 。一般人約9万4,000人・ 将兵約9万4,000人、米軍将兵約1万2,000人が死亡		
	7月 米軍、琉球作戦終了を宣言		
	8月 終戦(15日) 米軍機により降伏ビラがまかれる 軍旗、野原岳の洞窟司令部で奉焼の後、洞窟司令部を破壊、「御真影」「勅語謄本」などを奉焼	8月 米軍、広島(6日)と長崎(9日)に原子爆弾投下 日本、ボツダム宣言受諾(14日) 連合軍先発隊、厚木に到着	
	9月 現地編成及び現地徵収部隊の復員終了 納見先島集団長ら、米軍機で沖縄本島へ渡り、 降伏文章に正式調印。 米軍約2,000人が宮古島へ上陸し、日本軍の武装解除にあたる。	9月 降伏文書調印(7日)	
	10月 兵器奉還業務完了、宮古に駐屯する将兵らの復員はじまる(翌1月に一応の終了)	10月 政治犯3,000人釈放 国際連合発足	
	12月 米軍、宮古島へ進駐 納見中将、BC級戦犯に指名され、野原越司令部の宿舎で自決(13日)		

宮古島地区防衛配備図と宮古群島の沖縄戦のようす

参考:『宮古島市史 第一巻 通史編』/『沖縄戦争遺跡詳細分布調査(V)-宮古諸島編-』

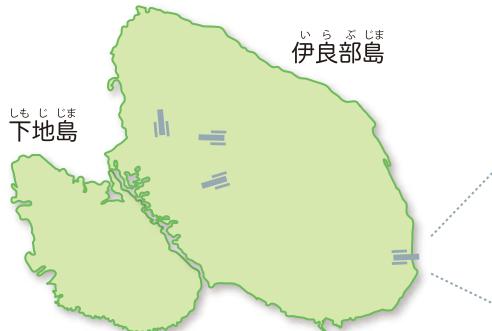
米軍の上陸があるとされていた宮古諸島では、敵の上陸地点に兵力を集中し、一挙に敵を壊滅させる「水際戦」をたてました。万が一、敵の上陸を許した場合は、野原岳周辺の陣地間を複雑な迷路や枝状の通路で繋ぐ複雑陣地で持久戦を展開することも計画していました。そのため、敵上陸地点を地形から判断して、①平良港、②下地村宮国から嘉手苅、③白川湾の3か所と予想し、それぞれの地点に水際陣地、特攻艇秘匿壕、海軍砲台などを構築し、兵力を集中展開しました。

そのため、小さな宮古諸島に約3万もの将兵が配備され、ほとんどの兵種の部隊が展開していました。結果的に宮古諸島に米軍は上陸しませんでしたが、十・十空襲や五・四艦砲射撃などによる被害と、飢えやマラリアで、住民も含めた多くの命が失われました。

宮古諸島に配備された日本軍は、捕虜となることなく、組織的に武装解除して降伏しています。そのため、任務を終えて帰還するまでの間、慰靈塔の

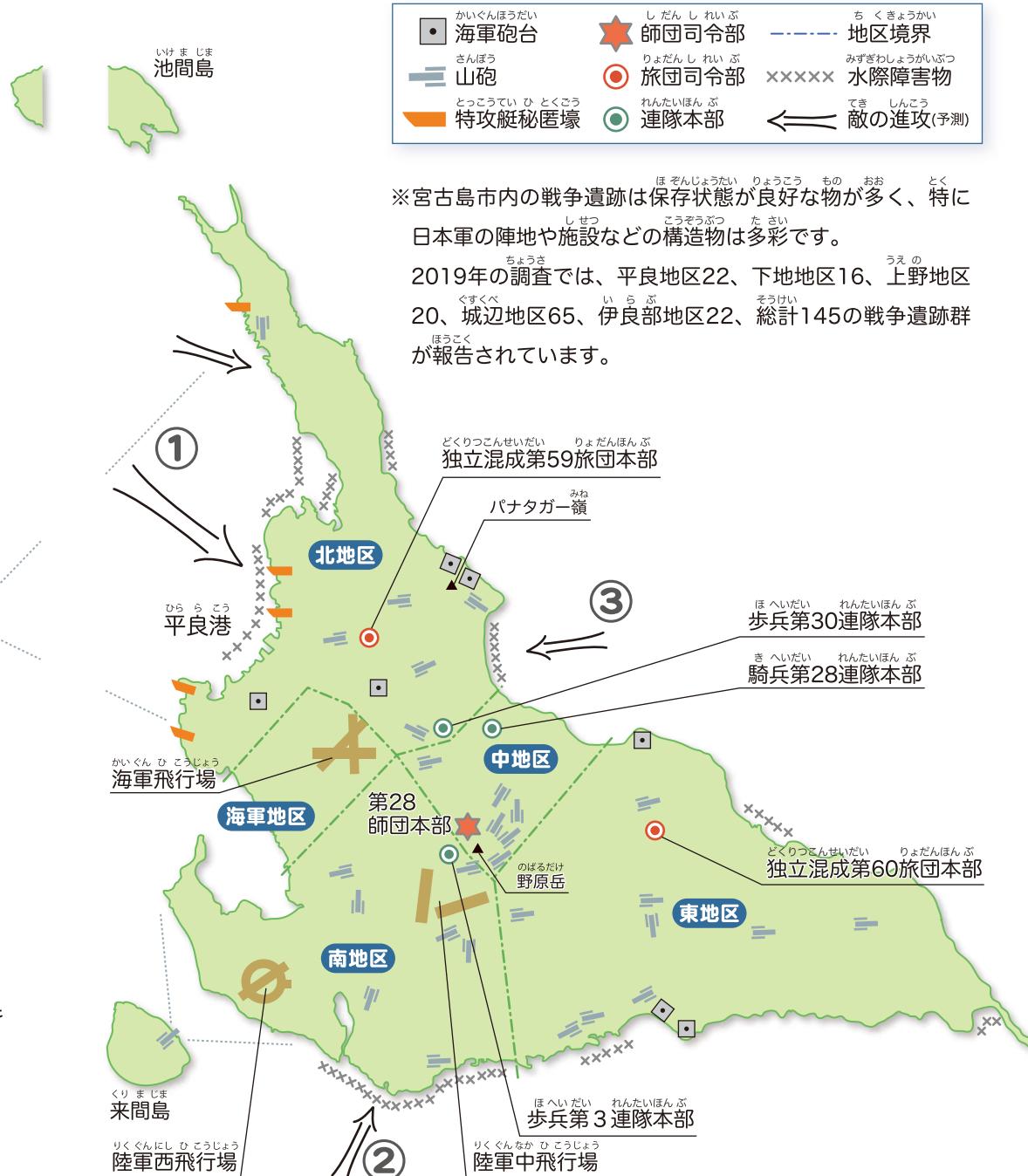
おきなわせん 宮古島地区防衛配備図と宮古群島の沖縄戦のようす

建立や戦後の政治・軍事情報などの情報紙の発行といった、沖縄本島では見られない日本軍の戦後がありました。



飛行場建設には
女、子ども、老人まで昼夜かまわず運動がされた。
土地を強制的に取り上げられ、
多く住む先はマラリアが
蔓延。

爆弾で死んでしまった。
<マラリア>
虫を媒介とする熱病
栄養失調やマラリアによる
病死の方が多かった。



※宮古島市内の戦争遺跡は保存状態が良好な物が多く、特に日本軍の陣地や施設などの構造物は多彩です。

2019年の調査では、平良地区22、下地地区16、上野地区20、城辺地区65、伊良部地区22、総計145の戦争遺跡群が報告されています。

『先島群島作戦(宮古篇)』瀬名波栄を参考に作成

そうえんちょう
総延長 500m以上、宮古島最大規模の壕

かい ぐん だい
海軍第313設営隊地下壕群



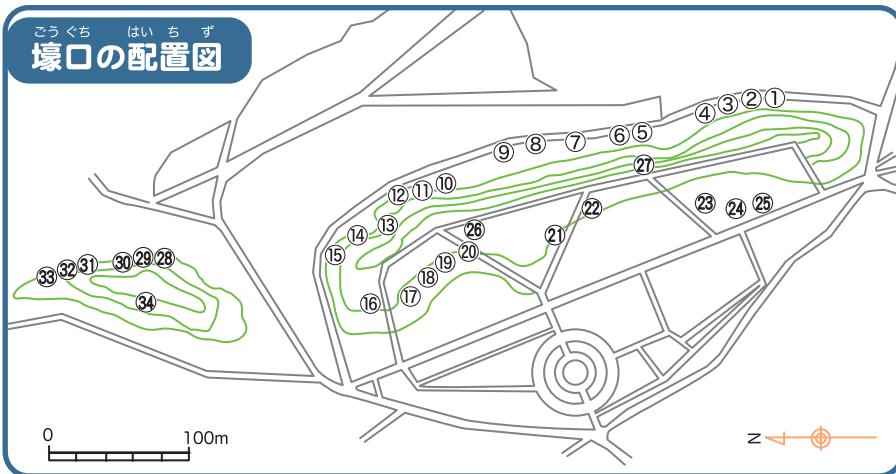
所在地：平良字東仲宗根（熱帯植物園から宮古青少年の家付近）

熱帯植物園から宮古青少年の家にかけての丘陵には、34か所の壕口が広範囲にわたって造られています。

これらの壕群は、軍事作戦に必要な陣地を構築する「海軍第313設営隊(650人)」の本拠地に関するもので、中には総延長が500m以上にも及ぶものもあり、宮古で最大規模の壕が確認されています。



壕口の配置図



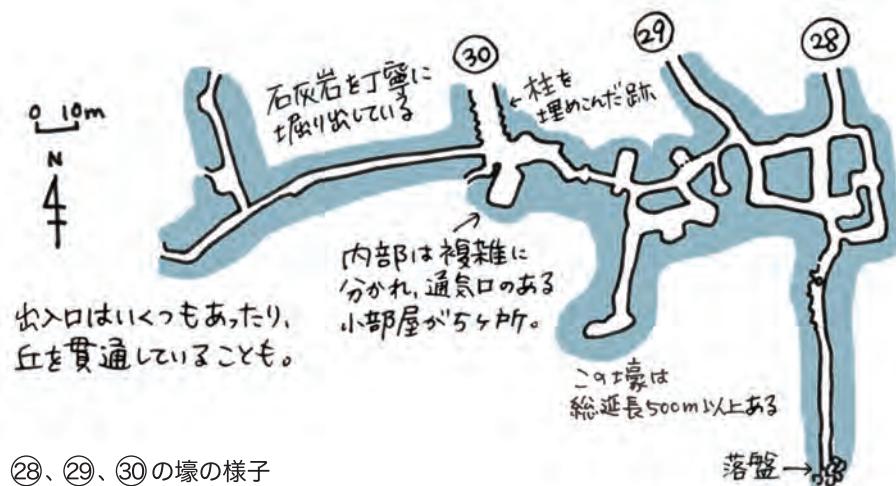
※経年劣化により、いくつかの壕口は埋没しています



たな
棚として利用されていたと思われる窪み



いくくないぶ
入り組んだ内部



28、29、30の壕の様子

ふた え ごし ごう ぐん
二重越の壕群



所在地：平良字東仲宗根（市民球場西の丘陵）

二重越の壕群は、丘陵東側の壁面を掘り込んで構築されています。複数の壕からなり、最大の壕④は、5つの壕口が連結し、総延長は200m以上にもなります。また、中にはコンクリート造りの壕や、電線を渡したと思われる鉄製のフックや碍子^{*}が散在する壕も確認され、軍事的に重要性の高い壕群であるといえます。聞き取りや関係資料から、「海軍警備隊本部」と考えられています。



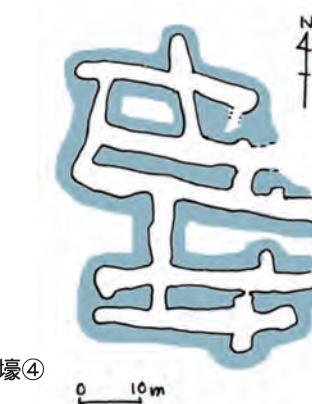
壕②の内部



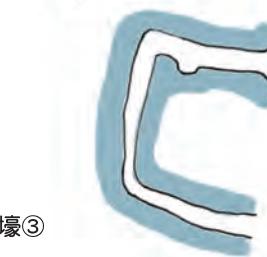
壕内に散在する碍子



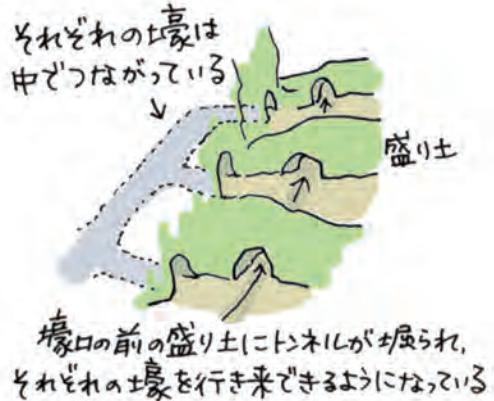
陣地壕



壕④



壕③



※碍子：電線とその支持物とのあいだを絶縁するため用いる器具



せんそういせき 戦争遺跡として宮古島市で最初の指定文化財

かいぐんとつこうてい かいぐんとくこうへんごくのうひとくごう 海軍特攻艇格納秘匿壕 (ヌーザランミ) 2004(平成16)年4月15日指定

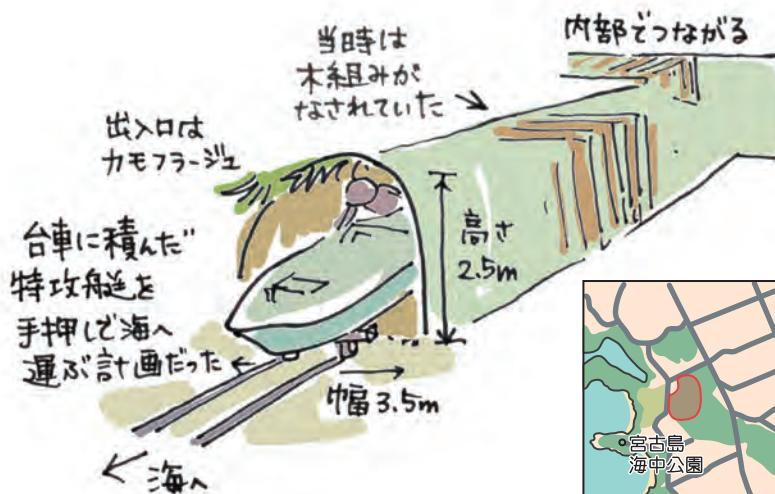
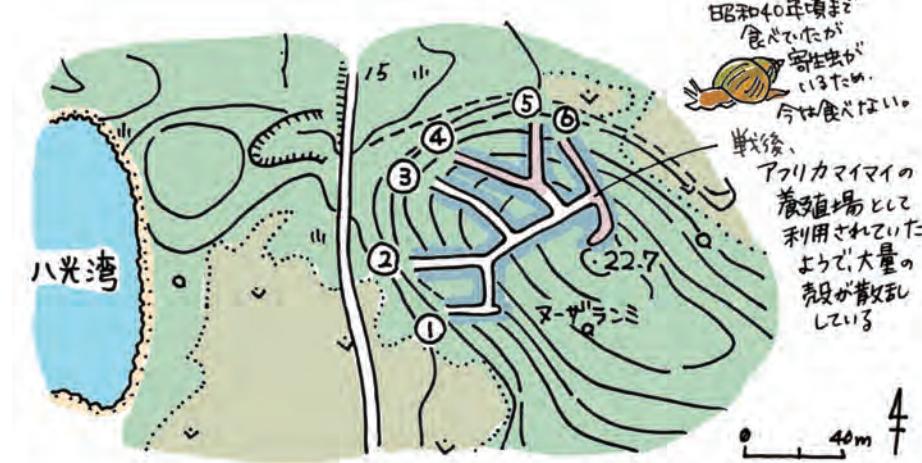


所在地：平良字狩俣 (海中公園付近)

この秘匿壕は、宮古島市の戦跡で初めて市の史跡に指定されました。壕は6つの壕口が連結しており、総延長は約300mになります。当時、壕の内部には41艇の特攻艇が格納され、特攻艇を載せる台車のレールが八光湾まで敷かれていました。壕は「海軍第313設営隊」が構築し、「第41震洋隊(八木部隊)」が配置されました。宮古は米軍の上陸がなかったため、出撃することはありませんでした。



壕遠景
ないぶ



りくぐん とつこうてい ひとく

陸軍の特攻艇を秘匿するためにつくられた壕群

大浜の特攻艇秘匿壕群



所在地：平良字久貝（伊良部大橋付近）

宮古島から伊良部大橋へと繋がる道の左手側に、数多くの壕が残されています。これらの壕群は、琉球石灰岩を「コの字型」や「H型」に、掘り込んであります。壕①には特攻艇を移動させるためのレールを設置した際の敷石が残っています。これらの壕群には「海上挺進第30戦隊」の特攻艇を秘匿する予定でしたが、奄美近海で全滅してしまったため、使用されることなく終戦を迎えました。

※秘匿：こっそり隠しておくこと



現在は壕の北側が埋め立てられていますが、当時は海に隣接しており、特攻艇はすぐに出撃できるようになっていました。

いました。2015年に開通した伊良部大橋の道路建設によって、海側の2か所の入り口は消失しています。



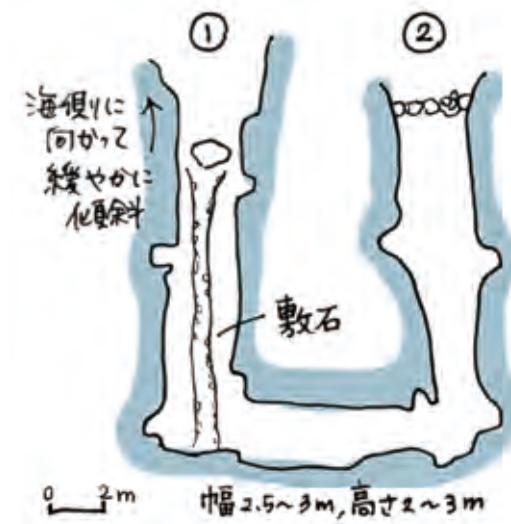
①の壕内部



レールを設置した敷石の跡（①の壕）



②の壕内部より壕口をのぞく



た とっこう てい ひ とく こう その他の特攻艇秘匿壕



トウリバー浜特攻艇秘匿壕群



にか どり
荷川取海岸秘匿壕群・ウプドゥ
マーリヤ特攻艇秘匿壕群



カヤファ壕(下地島)*



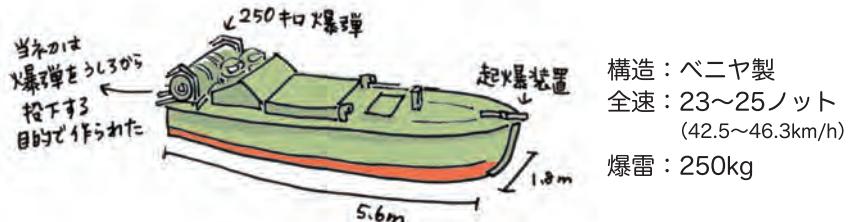
カンギィダツ壕(下地島)*

※この2か所は場所を明確に確認できていません

とっこう てい 特攻艇とは

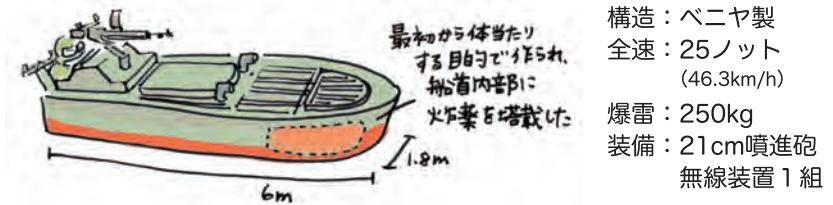
特攻艇は、爆弾を積んだまま敵軍の艦船に体当たりする兵器で、日本軍が戦局を挽回しようと製造した苦肉の自爆兵器でしたが、実際の戦闘では、艦船に近づくことも難しく、ほとんど戦果を上げることができませんでした。

りく ぐん すい じょう とっ こう てい
陸軍水上特攻艇「四式肉薄攻撃艇 ①」



りくぐん こ がた こうげきてい たいりょう せんてい てきせん かん にくはく ばくらい とう か り だつ
陸軍の小型攻撃艇。大量の船艇で敵戦艦に肉薄し、爆雷を投下して離脱するという考えの元に開発されたものだが、体当たりしたほうが戦果が上がり、また技量もそれほど要らないことから、体当たり攻撃用に使われるようにになった。

かい ぐん すい じょう とっ こう てい
海軍水上特攻艇「震洋」



かいぐん せっけいせいぞう
海軍が設計製造した特攻艇。艇首内部に炸薬を搭載し、体当たり攻撃する
りょうさん こうりょ
目的で量産を考慮して設計、製造された。ふたり乗りタイプには機銃1~2
の きじゅう
丁が搭載され、指揮官艇として使用された。戦争末期は2発のロケット弾が
せんしゅない ぶ さくやく とうさい
搭載された。

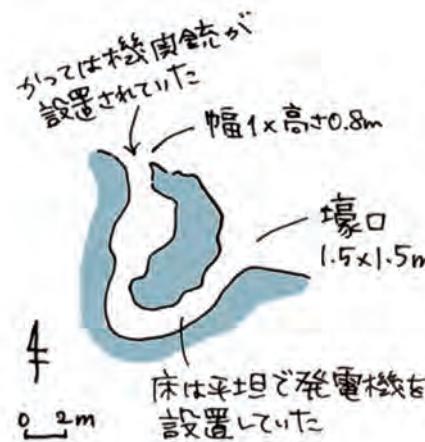
島尻東海岸線の防衛を目的とした重火器砲壕

宮古南静園の重火器砲壕

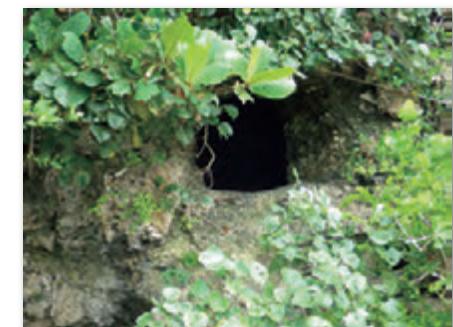


所在地：平良字島尻（南静園の海岸線付近）

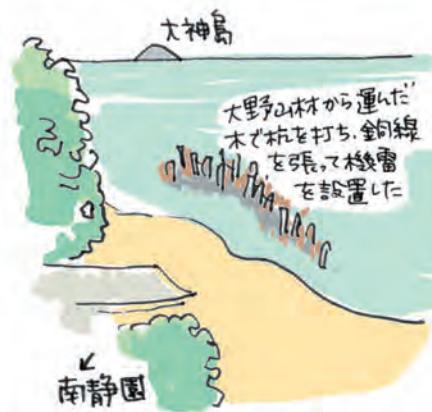
国立療養所宮古南静園の敷地北側にある船揚げ場の浜の崖に、U字型の壕があります。この東海岸一帯は、米軍が上陸する地点と想定されていたため、上陸を阻止するための重火器が設置されました。この壕は「歩兵第30連隊速射砲中隊」が造ったと考えられています。



こうくち 壕口



ほうくち 砲口



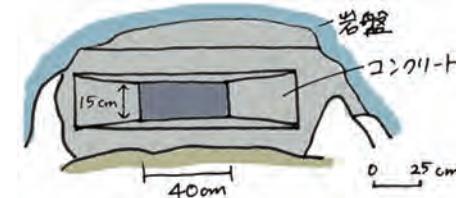
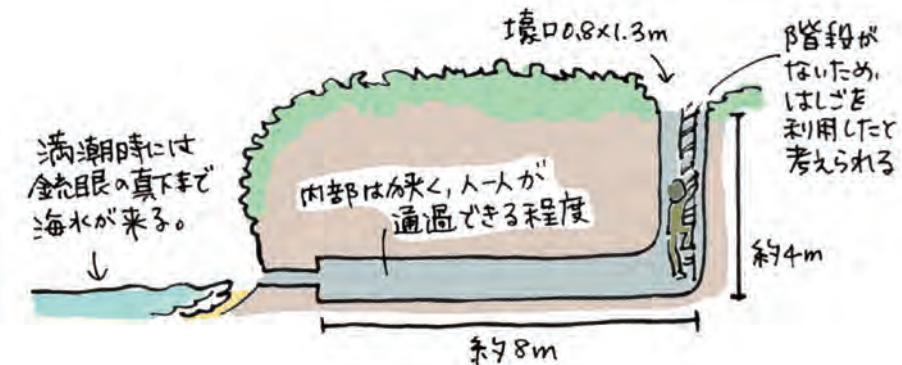
つうろ 通路

き かん じゅう ごう
パイナガマの機関銃壕

所在地：平良字下里（パイナガマビーチ付近）

この壕は、パイナガマビーチ西側の、砂浜が途切れる部分の岸壁にあります。石灰岩をくりぬいて坑道をつくり、銃眼のみコンクリート造りになっています。銃眼から約8m離れたところに、約4mの竪穴があり、ここから出入りしていました。満潮時には銃眼の真下まで海面が来ます。

この壕はパイナガマに上陸する敵を迎撃つための施設と考えられています。

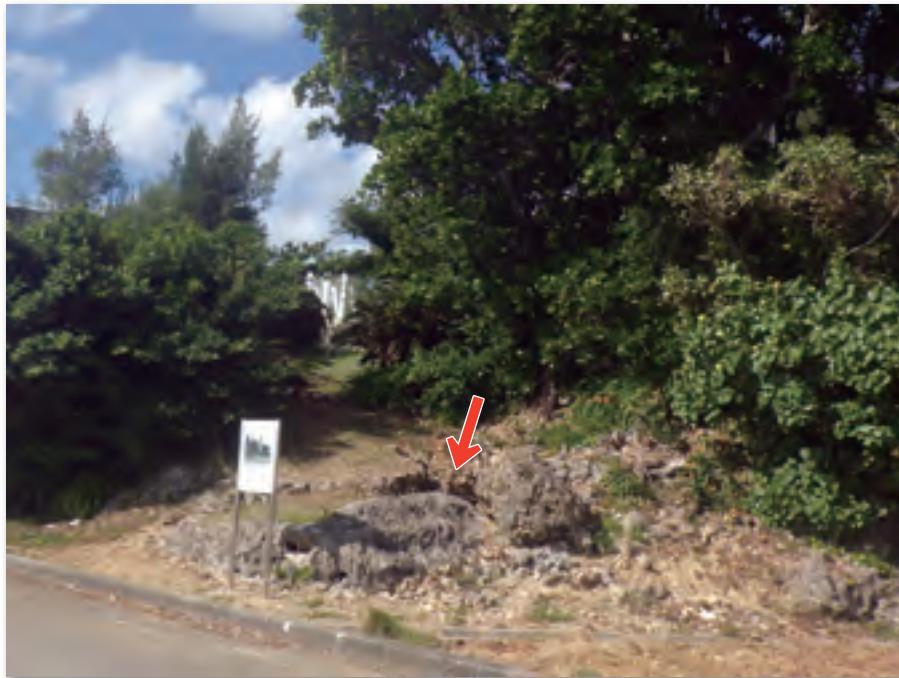
えんけい
遠景じゅうがん
銃眼ごうぐち
壕口ごうないぶ
壕内部

※銃眼：敵を銃撃するために防壁に設けた小さな穴



かいがんせん ぼうえい もくでき
海岸線の防衛を目的とした機関銃壕

ひさまつ きかんじゅうごう
久松の機関銃壕



所在地：平良字久貝（久松五勇士碑付近）

久松五勇士を称える記念碑の西側の緩斜面下に、機関銃壕があります。壕口は狭くなっていますが、中は立って歩けるほどの広さで、銃眼は東側と南側の2か所に配置されています。内部にはコンクリート造りの台や、爆風避けと思われる壁が造られています。この壕は、海軍の警備隊が使用していましたと考えられています。かつてはこの壕の西側は海岸線でしたが、現在は埋め立てられています。



コンクリート造りの台と銃眼



爆風避けと思われるコンクリートの壁

